

# ご注意事項

**本資料は、勉強会の為に作成されたものであり、有価証券の取引、その他の取引の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。**

**本資料及び資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、お客様の判断と責任において使用されるものであり、本資料及び資料にある情報の使用による結果について、当社は何らの責任を負うものではありません。**

**本資料で記載しております価格、数値、金利等は概算値または予測値であり、諸情勢により変化し、実際とは異なる場合がございます。また、本資料は将来の結果をお約束するものではなく、お取引をなさる際に実際に用いられる価格または数値を表すものでもございませんので、予めご了承くださいませようをお願いいたします。**

## 店頭CFD取引にかかるリスクと費用等について

### CFD取引にかかるリスク

CFD取引は、お取引の対象となる銘柄の価格変動、金利相当額、配当相当額、価格調整額の支払い、各国の経済、社会情勢、金融政策、金融指標等の変動により損失が生じるおそれがあり、投資元本が保証されたものではありません。また、CFD取引は差し入れた証拠金を上回る金額の取引をおこなうことができるため大きな損失が発生する可能性があり、その損失額は差し入れた証拠金を上回るおそれがあります。

### CFD取引にかかる費用等

CFD取引の取引手数料は無料です。なお、取引にあたっては各銘柄の売付価格と買付価格には差（スプレッド）があります。スプレッドは銘柄ごとに異なります。詳しくは取引説明書等をご確認ください。

### 証拠金について

〔楽天CFD〕

取引金額に対して、指数CFDは10%以上、商品CFDは5%以上、バラエティCFDおよび株式CFDは20%以上の証拠金が必要となります。  
(楽天CFDのお取引は現時点では個人口座のみとなります。)

〔楽天MT4CFD〕

個人口座、法人口座ともに取引金額に対して、MT4証券CFDは10%以上、MT4商品CFDは5%以上の証拠金が必要となります。

商号等：楽天証券株式会社／金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号、商品先物取引業者

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

# 楽天CFDセミナー

## コモディティアナリスト 吉田哲の 注目銘柄と今後の展望

2025年2月27日（木） 19:30 - 20:15

本セミナーでは、セミナーでご紹介する商品等の勧誘を行うことがあります。弊社の取扱商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。各商品等へのご投資にかかる手数料等およびリスクについては、当該商品等の契約締結前交付書面等をよくお読みになり、内容について十分にご理解ください。

商号等：楽天証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号、商品先物取引業者

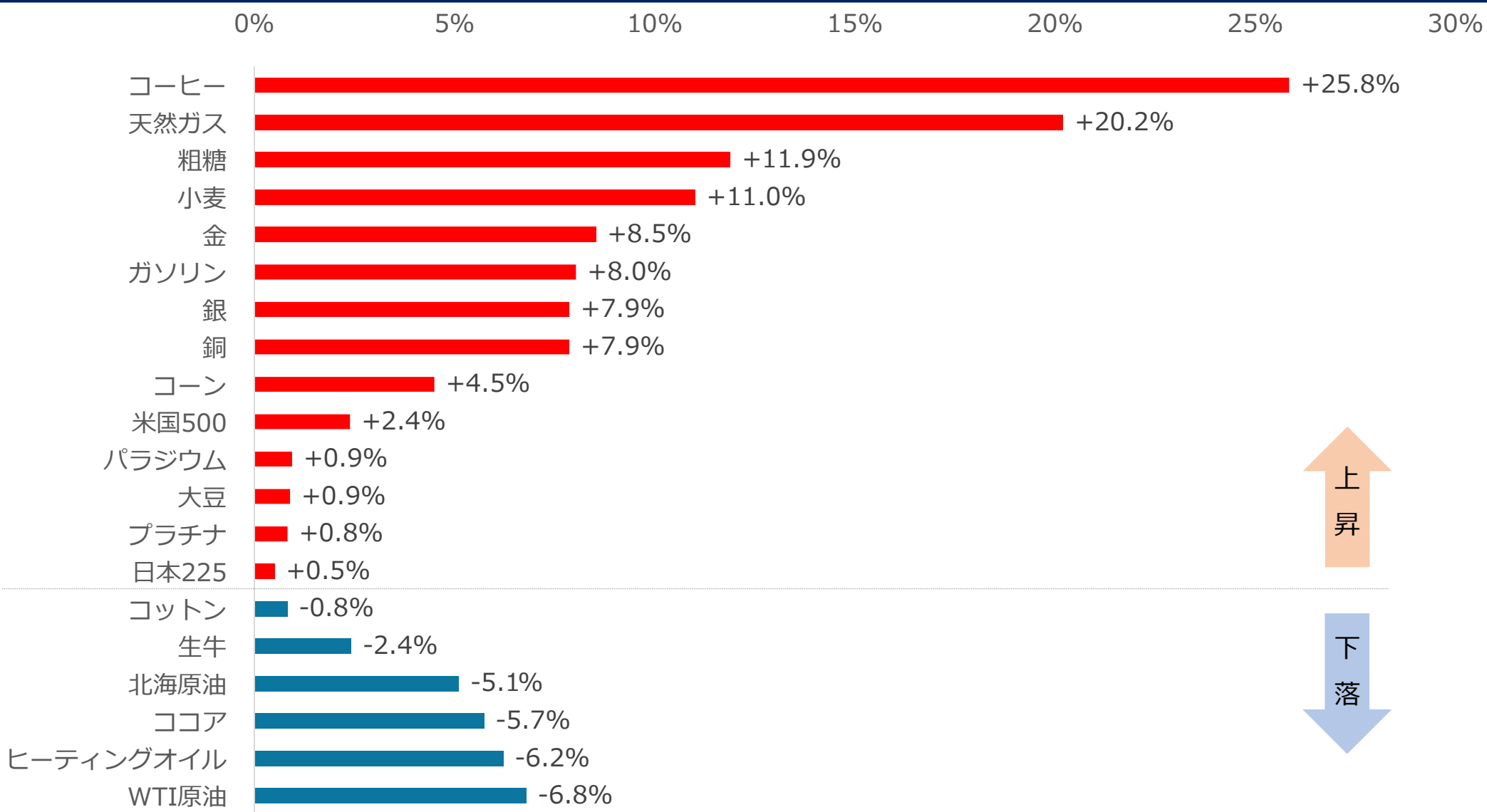
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会、

一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

- **最近1カ月間の商品CFD 変動率ランキング**
- **今注目したい銘柄（振り返りと展望）**
- **質疑応答**

- 最近1カ月間の商品CFD 変動率ランキング
- 今注目したい銘柄（振り返りと展望）
- 質疑応答

● 楽天CFD（商品、米国500、日本225）変動率ランキング 2025年1月17日と2月19日を比較



出所：マーケットスピードⅡのデータをもとに筆者抜粋



トランプ米大統領誕生は、天然ガス（エネ政策）、金（リスク拡大）の価格上昇の一因。

金属



金



銀



プラチナ



パラジウム



銅

エネルギー



WTI原油



北海原油



ヒーティングオイル



ガソリン



天然ガス

農産物



大豆



コーン



小麦



コーヒー



粗糖



ココア



コットン

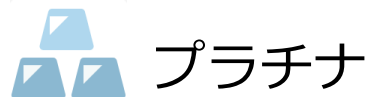


生牛

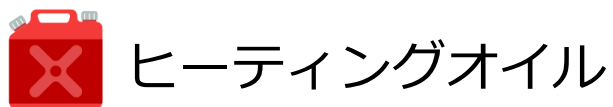
出所：楽天証券のウェブサイトより抜粋

# ● 今注目したい銘柄

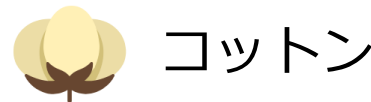
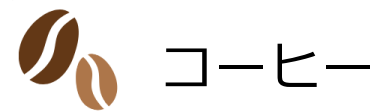
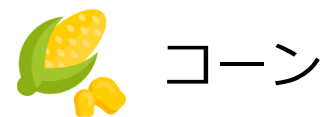
## 金属



## エネルギー



## 農産物



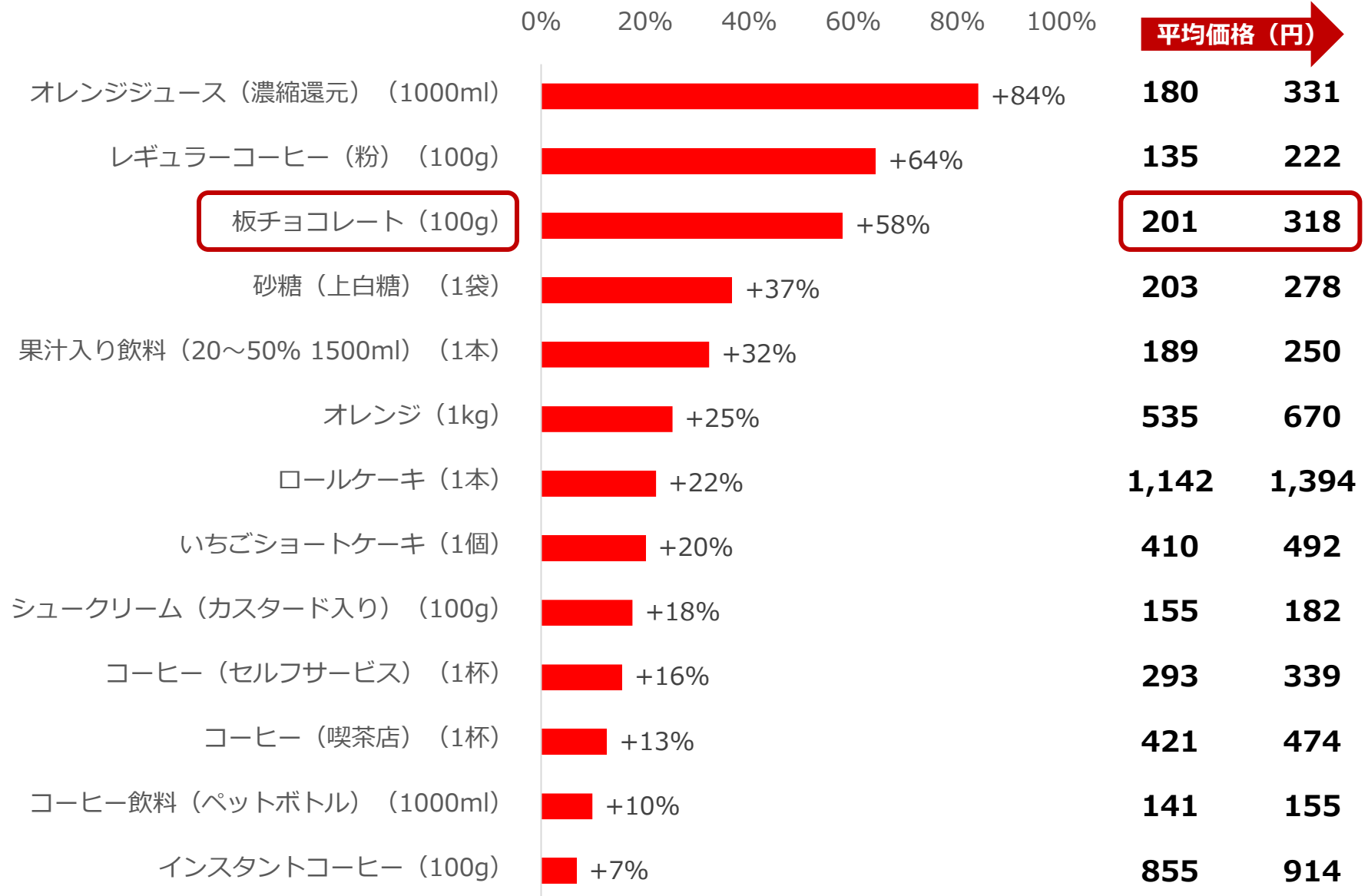
出所：楽天証券のウェブサイトより筆者抜粋



- 本日の内容

- 最近1カ月間の商品CFD 変動率ランキング
- **今注目したい銘柄（振り返りと展望）**
- 質疑応答

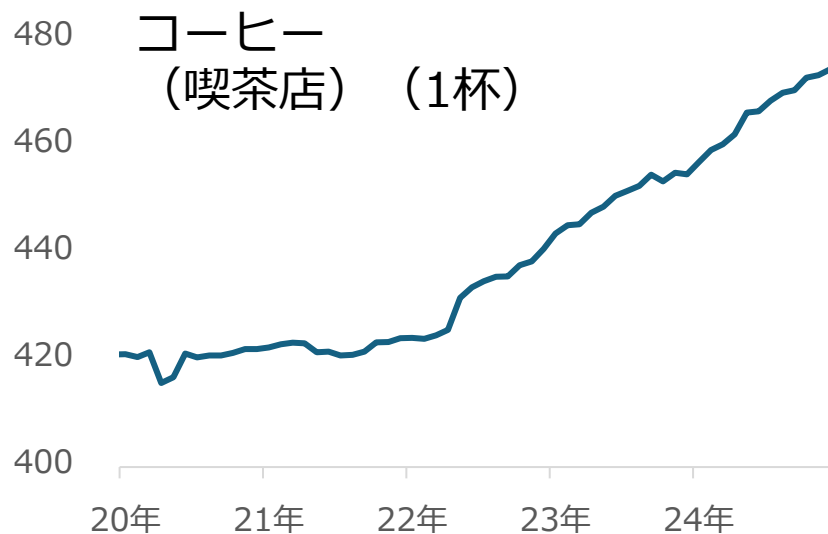
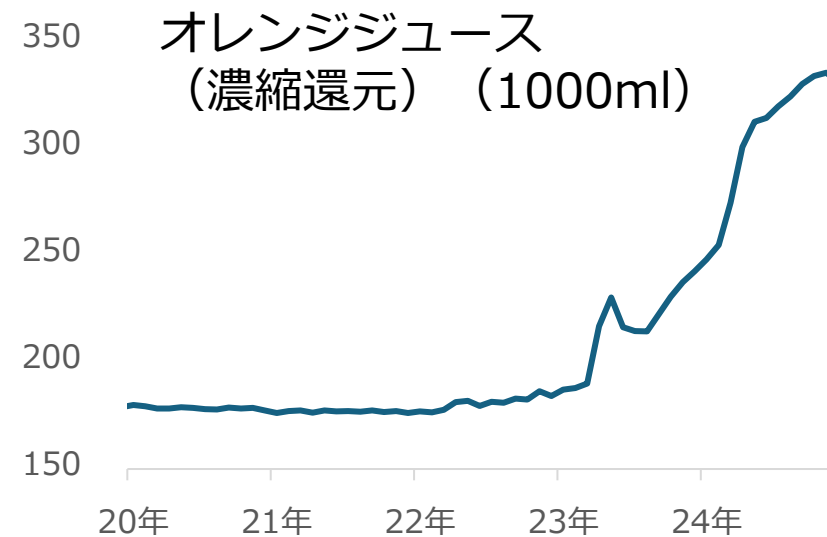
# ● 各種食品小売価格（県庁所在地平均）（2020年1月と2024年12月を比較）



出所：総務省「小売物価統計調査」のデータをもとに筆者作成

食品における嗜好品の価格は、総じて上昇している。

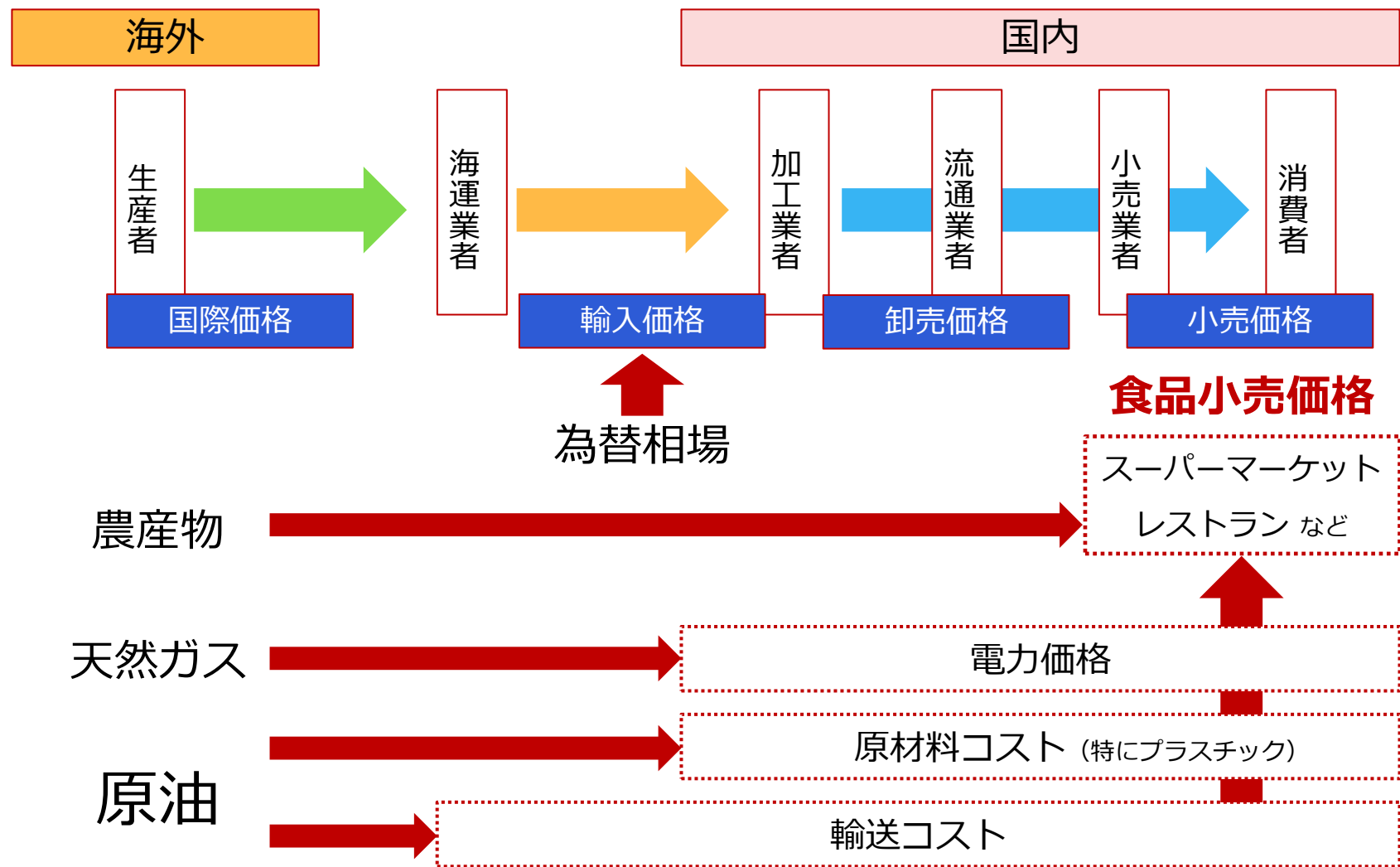
● 各種食品小売価格（県庁所在地平均） 単位：円



出所：総務省「小売物価統計調査」のデータをもとに筆者作成

各種食品の小売価格は、2022年ごろから上昇し始めた。

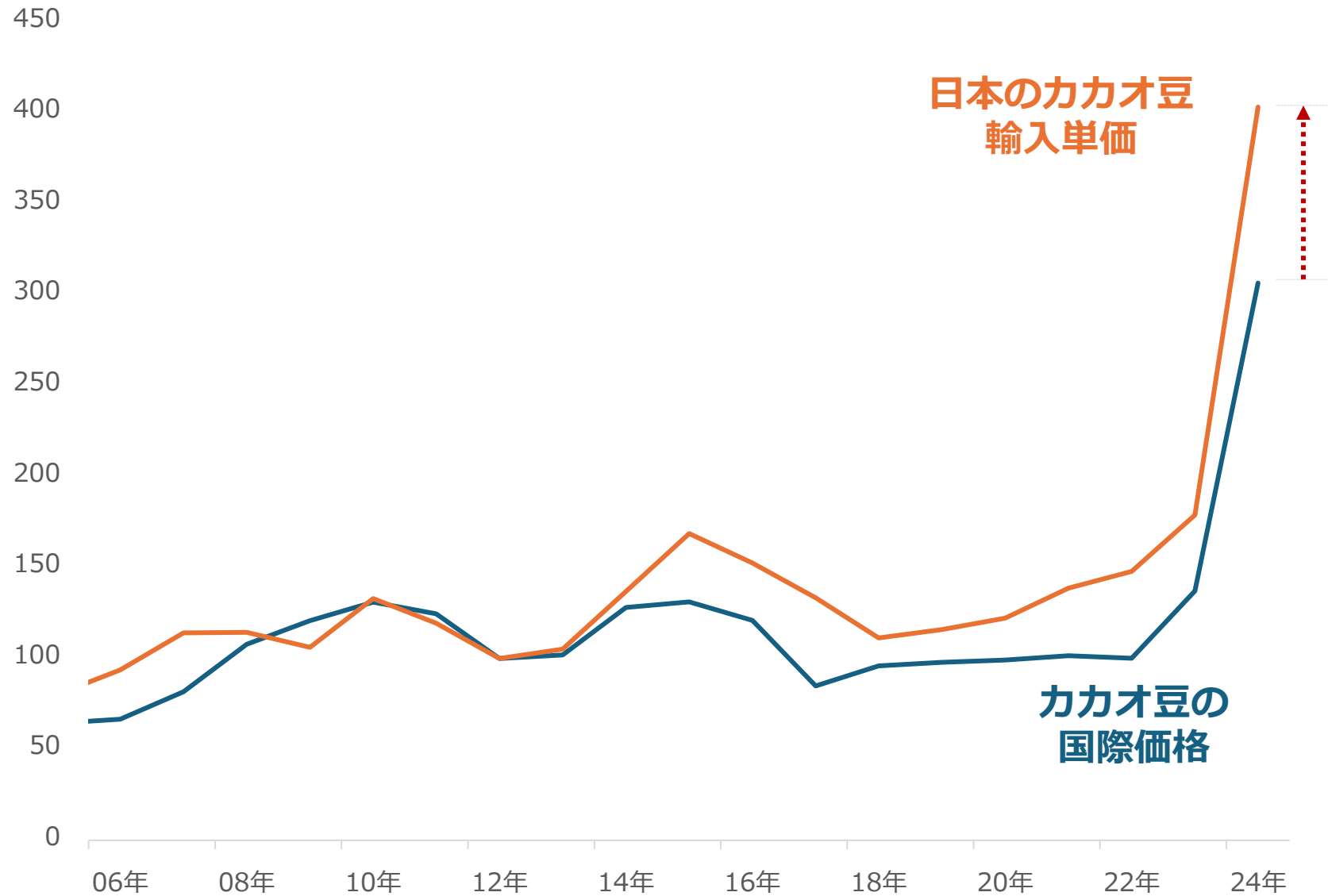
# ● 食品の小売価格が決まるまでの流れ（原材料が海外産の場合）



出所：筆者作成

食品小売価格に影響を及ぼす要素は、農産物の国際価格だけではない。

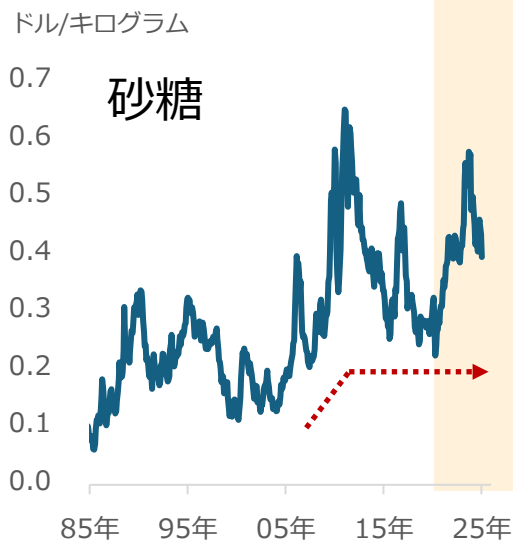
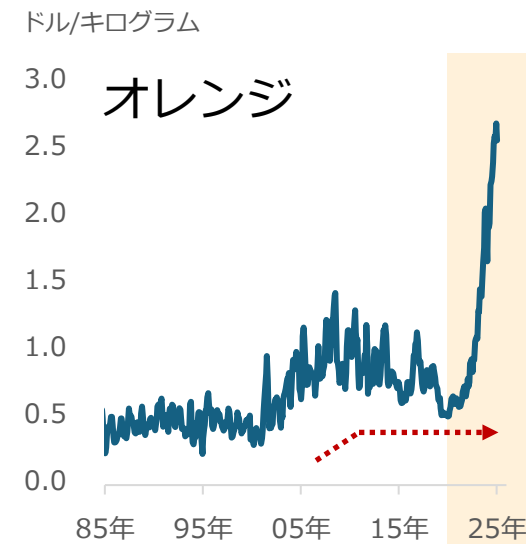
# ● カカオ豆の国際価格と日本のカカオ豆輸入単価（2012年を100として指数化）



出所：世界銀行および財務省「貿易統計」のデータをもとに筆者作成

カカオの国際価格は急上昇中。日本は円安の影響でなお上昇。

# ● 食品における嗜好品に関わる国際商品の価格推移



出所：世界銀行のデータをもとに筆者作成

長期視点ではいずれも高止まり。短期視点では個別の材料で上昇。

# ● 食品における嗜好品に関わる国際商品の価格を押し上げている材料（2025年2月時点）

時間軸

テーマ

材料

短期  
(急騰)

(1) 主要生産国での天候不順

カカオ豆・・・西アフリカ  
コーヒー・・・ブラジル、インドネシア  
オレンジ・・・ブラジル、米国 など

(2) 投機資金の流入

上昇トレンドに拍車をかける存在  
複数の農産物に横断的に流入

(3) 主要国での景気回復

嗜好品を消費する人口が多い主要国で  
景気回復傾向が目立っている

長期  
(底上げ)

(4) 世界的な人口増加

特に新興国で嗜好品を求める人口が増加  
先進国における生活習慣の変化も影響

(5) ESG起因の価格上昇圧力

耕地面積の拡大鈍化（環境配慮）  
生産者保護のムード情勢（人権配慮）

(6) 異常気象の頻発

世界各地で異常気象が頻発し、生産減少  
懸念が高い状態が続いている

(7) 耕作地を他の用途へ転用

より収益性の高い植物の栽培や、  
地中の鉱物資源の採掘を行うケース有

(8) 世界分断起因の出し渋り

食品における嗜好品の原材料を生産する  
国々の民主度は低く、出し渋りリスク有

(9) エネルギー価格の高止まり

生産の現場で、輸送や燃料のコスト、  
電気代が上昇している

出所：筆者作成

足元の価格急騰は、短期だけでなく長期視点で認識しなければならない。

# ● 食品における嗜好品の主要生産国と自由民主主義指数（2023年）

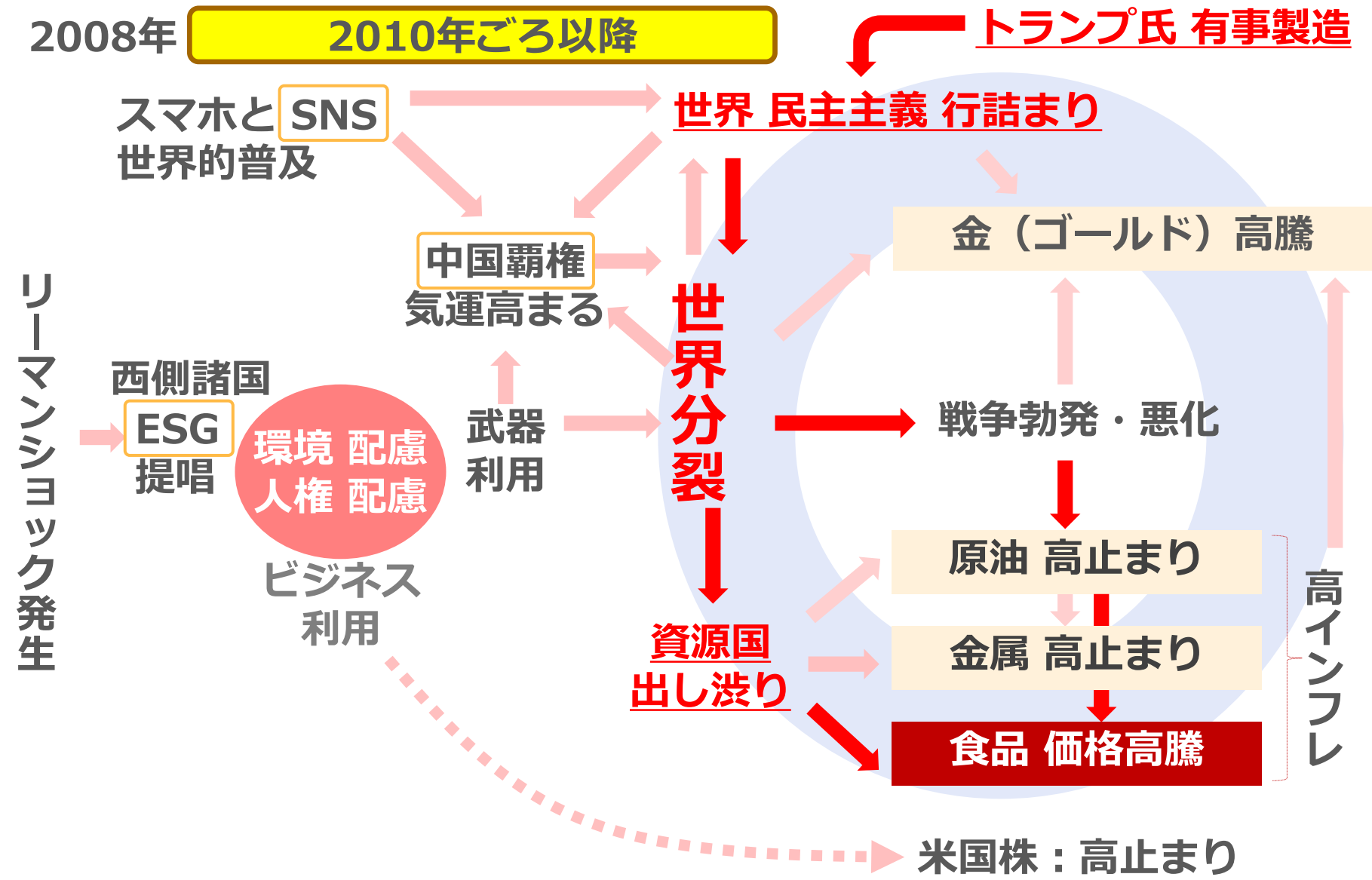
No	カカオ豆	自由民主主義指数	コーヒー豆	自由民主主義指数	砂糖 (サトウキビと甜菜)	自由民主主義指数	オレンジ	自由民主主義指数
1	コートジボワール	0.25	ブラジル	0.69	ブラジル	0.69	ブラジル	0.69
2	ガーナ	0.56	ベトナム	0.11	インド	0.28	中国	0.04
3	インドネシア	0.36	インドネシア	0.36	中国	0.04	メキシコ	0.30
4	エクアドル	0.47	コロンビア	0.57	タイ	0.24	インド	0.28
5	ブラジル	0.69	エチオピア	0.11	パキスタン	0.21	エジプト	0.13
6	カメルーン	0.13	ホンジュラス	0.39	米国	0.77	インドネシア	0.36
7	ナイジェリア	0.33	ウガンダ	0.22	メキシコ	0.30	スペイン	0.75
8	ペルー	0.58	ペルー	0.58	ロシア	0.06	トルコ	0.11
9	ドミニカ共和国	0.44	インド	0.28	インドネシア	0.36	米国	0.77
10	コロンビア	0.57	中央アフリカ共和国	0.10	オーストラリア	0.80	イラン	0.08
	<b>上記平均</b>	<b>0.44</b>	<b>上記平均</b>	<b>0.34</b>	<b>上記平均</b>	<b>0.38</b>	<b>上記平均</b>	<b>0.35</b>
	生産シェア	93.2%	生産シェア	81.9%	生産シェア	74.4%	生産シェア	64.9%

出所：V-Dem研究所およびFAO（国連食糧農業機関）のデータをもとに筆者作成

食品嗜好品の主要生産国は総じて自由民主主義指数が低く、出し渋りリスク有。



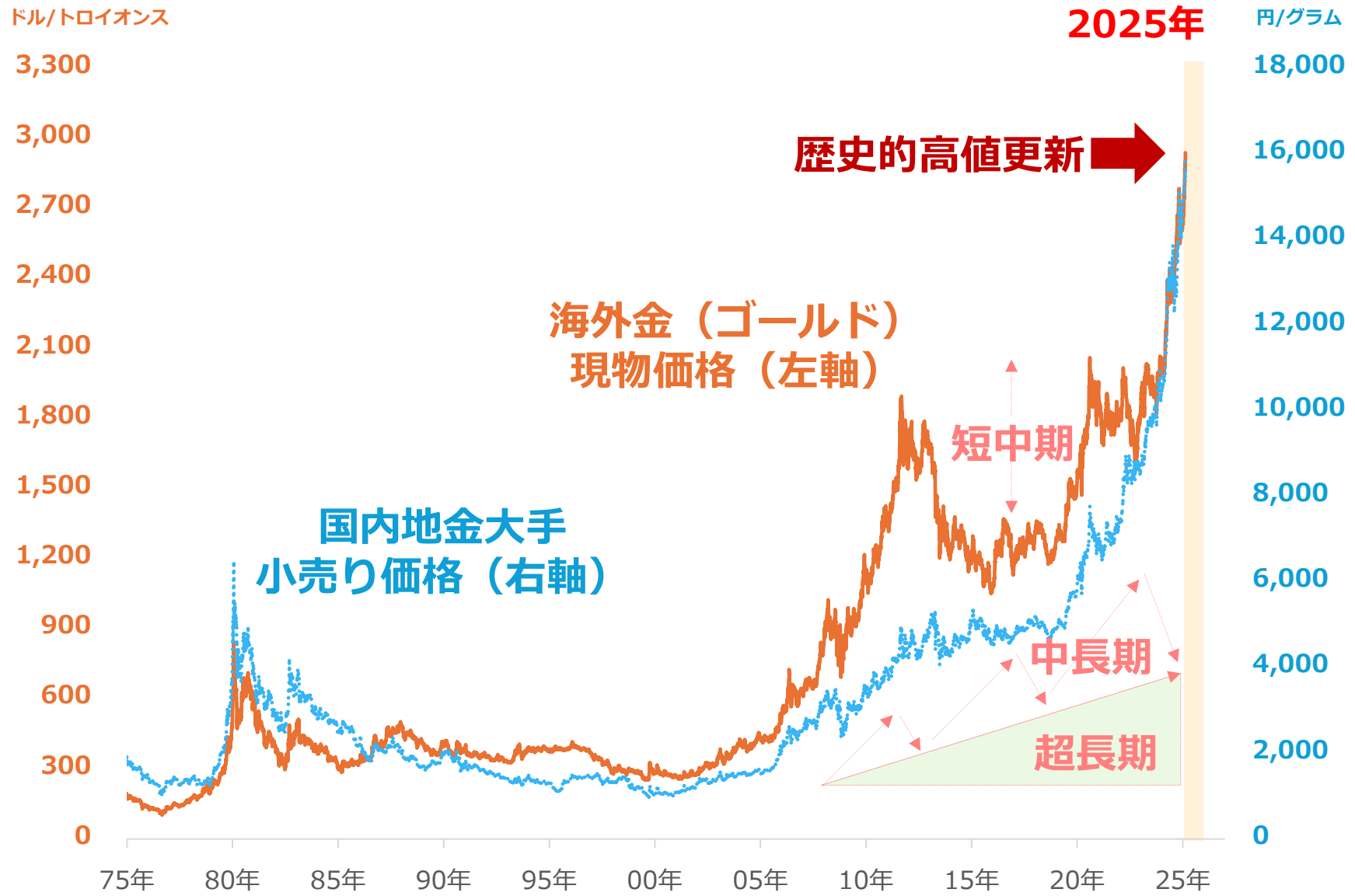
● 2010年ごろ以降の世界分断発生とコモディティ（国際商品）価格上昇の背景



出所：筆者作成

トランプ氏が製造する有事は、世界分裂・長期視点の高インフレを加速させる。

# ● 海外金（ゴールド）現物価格と国内地金大手小売価格の推移（1975年～）



出所：LBMAおよび国内地金大手のデータをもとに筆者作成

2010年ごろ以降の高騰劇を過去の常識だけで説明することは、難しい。

# ● 金（ゴールド）の国際相場に関わる七つのテーマ（2025年2月時点）

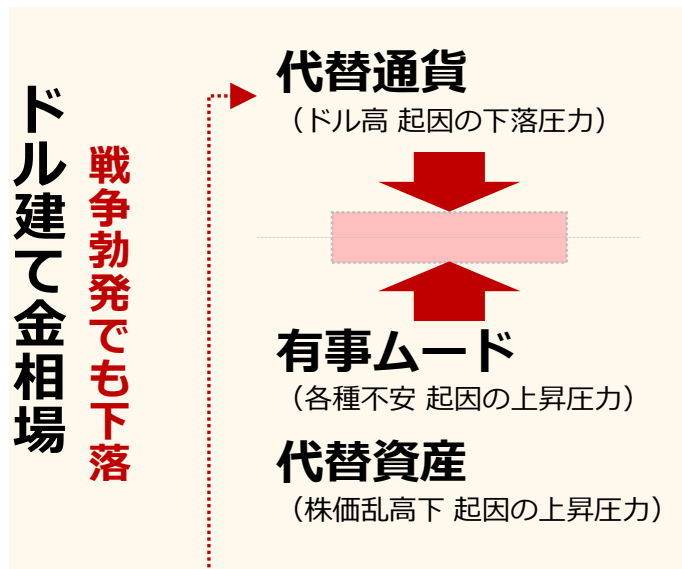
時間軸	テーマ	材料（一例）	金相場への圧力
<b>第一の矢</b> 短中期	(1) 有事ムード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トランプ2.0始動</li> <li>・ ウクライナ情勢改善観測</li> </ul>	
	(2) 代替資産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 株価急反落</li> <li>・ 株価急反発</li> </ul>	
	(3) 代替通貨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米利下げ推進観測によるドル安</li> <li>・ 米利下げ後退観測によるドル高</li> </ul>	
<b>第二の矢</b> 中長期	(4) 中印等の宝飾需要	-	
	(5) 中央銀行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金保有高増加（新興国中銀）</li> <li>・ 通貨供給量増加（米ドル）</li> </ul>	
	(6) 鉱山会社	-	
<b>第三の矢</b> 超長期	(7) 見えないジレンマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西側 非西側の分断</li> <li>・ SNS・ESG起因の混乱</li> <li>・ 長期視点の高インフレ</li> </ul>	

出所：筆者作成

時間軸を三つに分けて材料を俯瞰し それぞれの材料がもたらす圧力を相殺する。

# FRBの利上げ・利下げが及ぼす金（ゴールド）相場への影響

FRB：引締め（利上げ）局面  
2022・23年

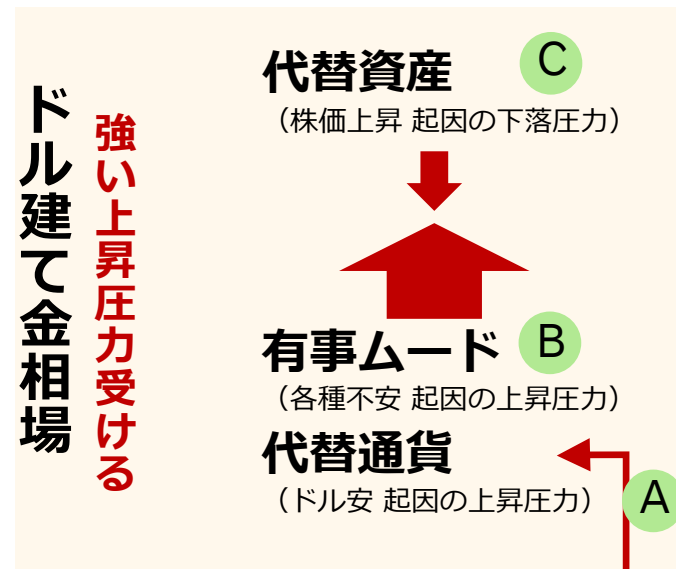


ドル高・円安  
ドル円相場

FRB  
利上げ（ドル高）

円安

FRB：緩和（利下げ）局面  
2024年以降



ドル安・円高  
ドル円相場

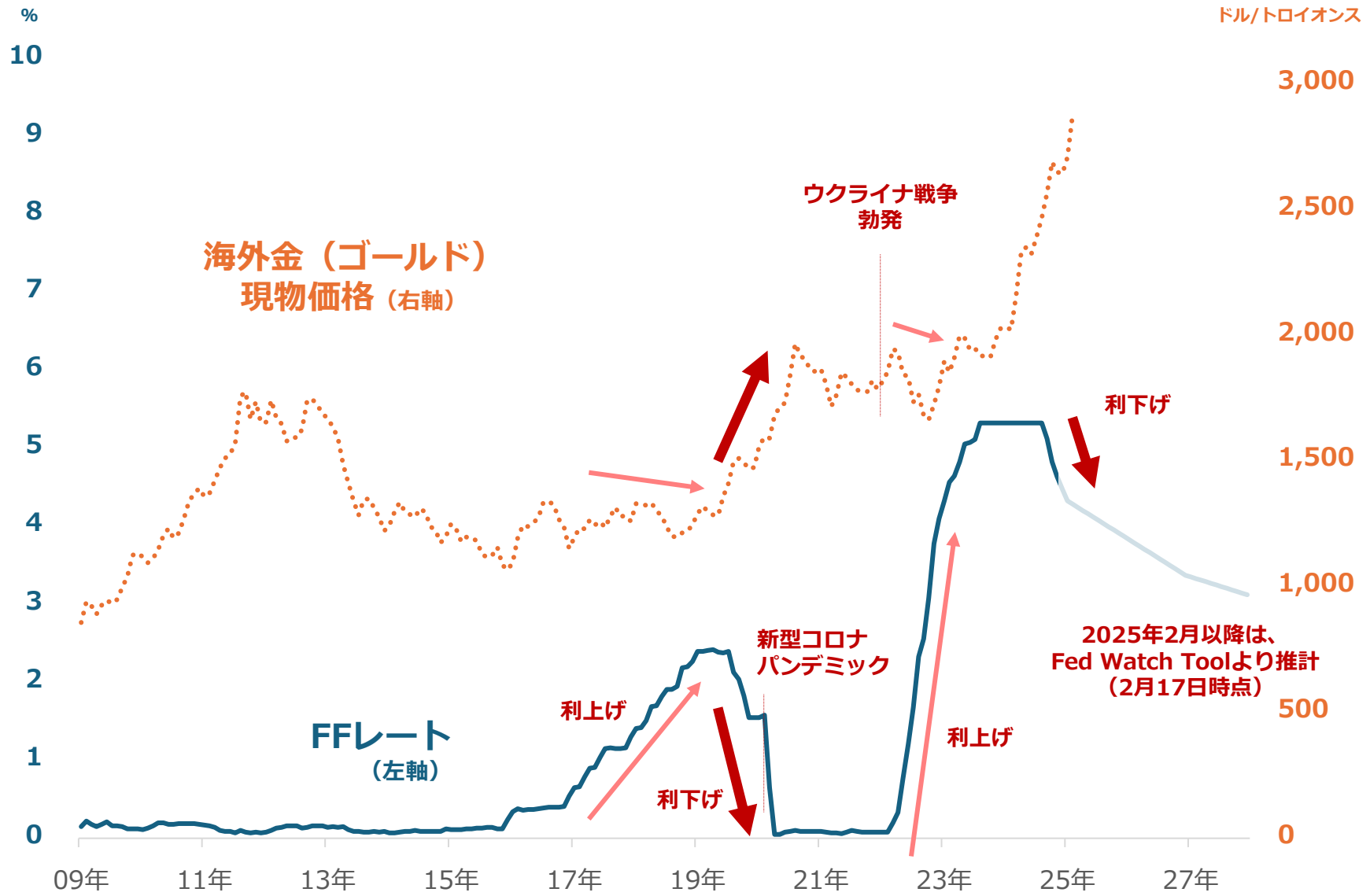
FRB  
利下げ（ドル安）

円高

出所：筆者作成

FRBの利下げは、金（ゴールド）市場にとって重大な出来事。

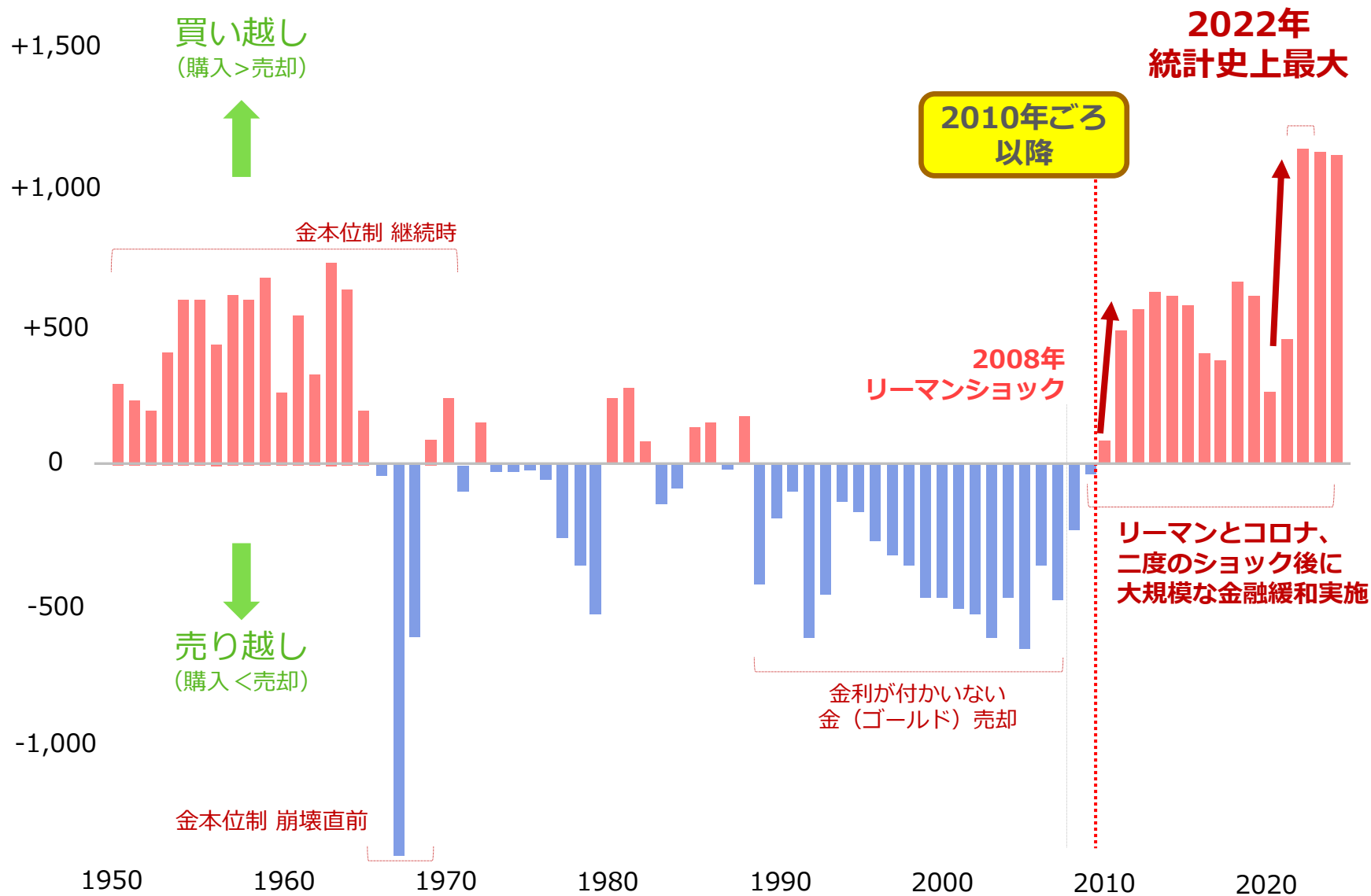
# ● FFレートと海外金（ゴールド）現物価格の推移



出所：FEDおよびLBMAのデータ、Fed Watch Toolの資料をもとに筆者作成

利下げ時、金（ゴールド）価格は上向く場合がある。

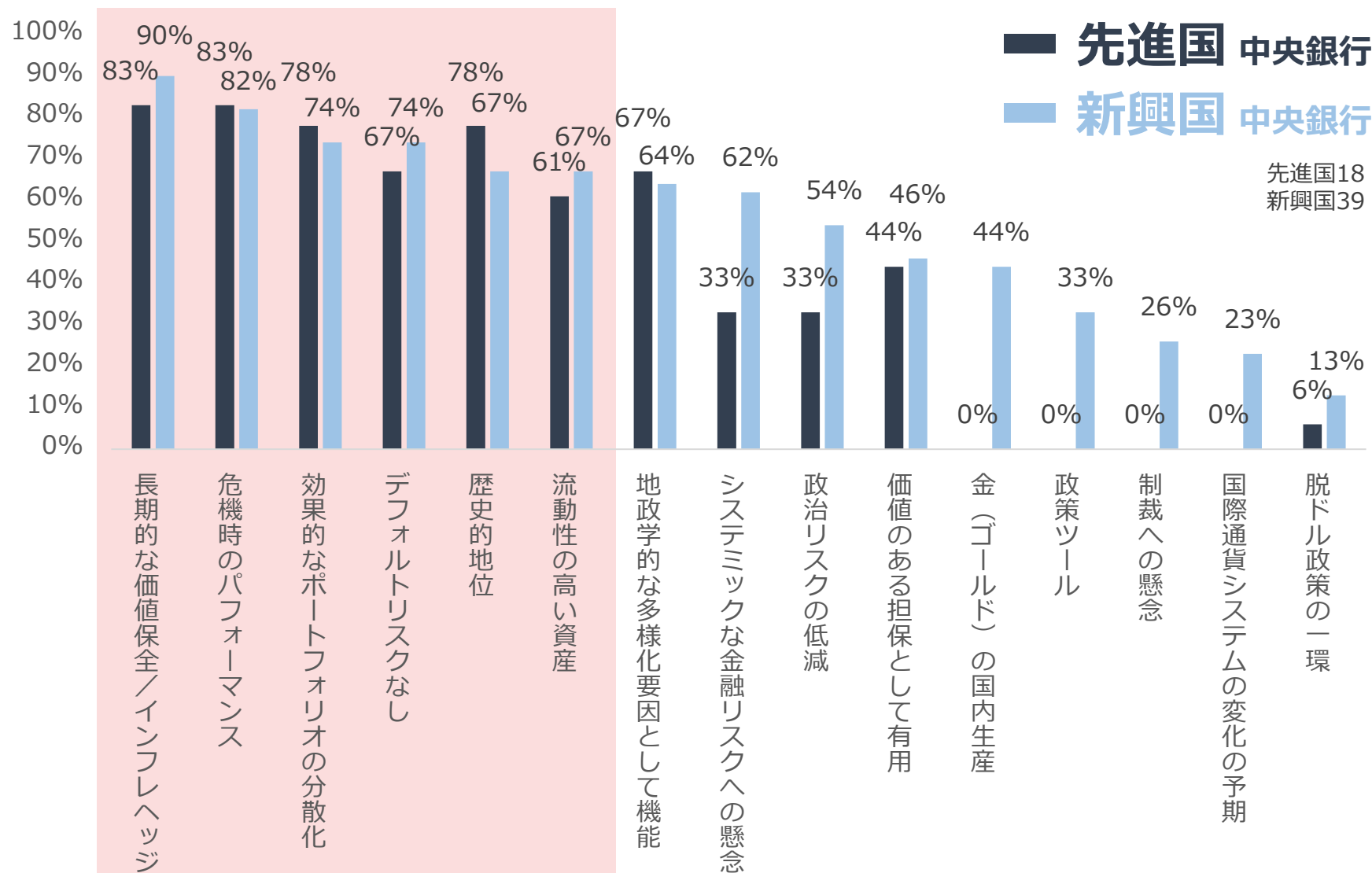
● 中央銀行による金（ゴールド）買い越し量の推移（1950年～2024年） 単位：トン



出所：WGC（ワールド・ゴールド・カウンシル）の資料をもとに筆者作成

リーマンとコロナ、二度のショック後に行った大規模な金融緩和への保険。

● 金（ゴールド）保有時の意思決定に関連するトピックは何ですか？（2024年）（複数回答可）

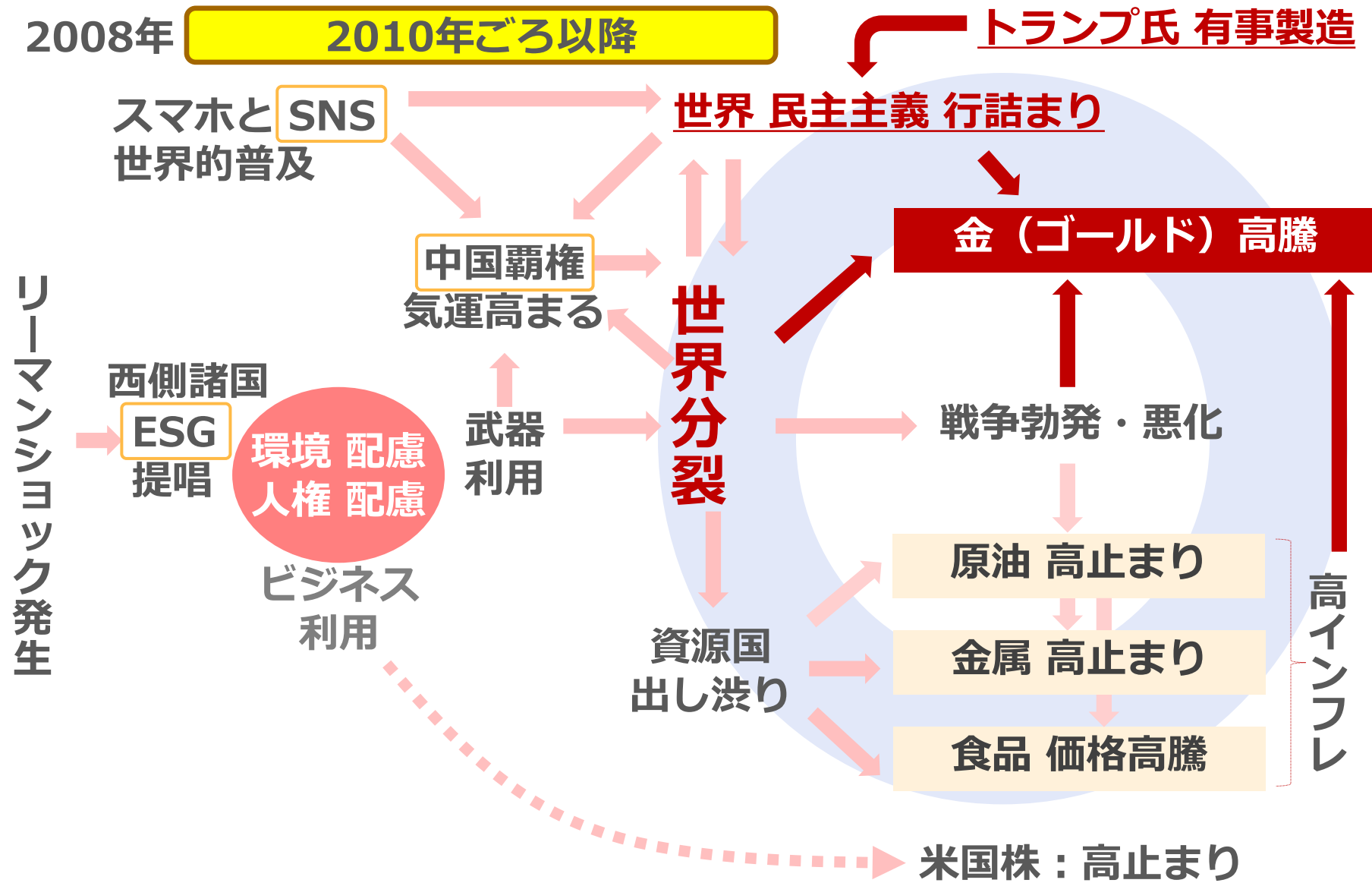


金（ゴールド）は、通貨の価値希薄化への処方箋

出所：WGC（ワールド・ゴールド・カウンシル）の資料をもとに筆者作成

リーマン・コロナショック後にお金を刷りすぎたことへの対処 という意味あり。

● 2010年ごろ以降の世界分断発生とコモディティ（国際商品）価格上昇の背景

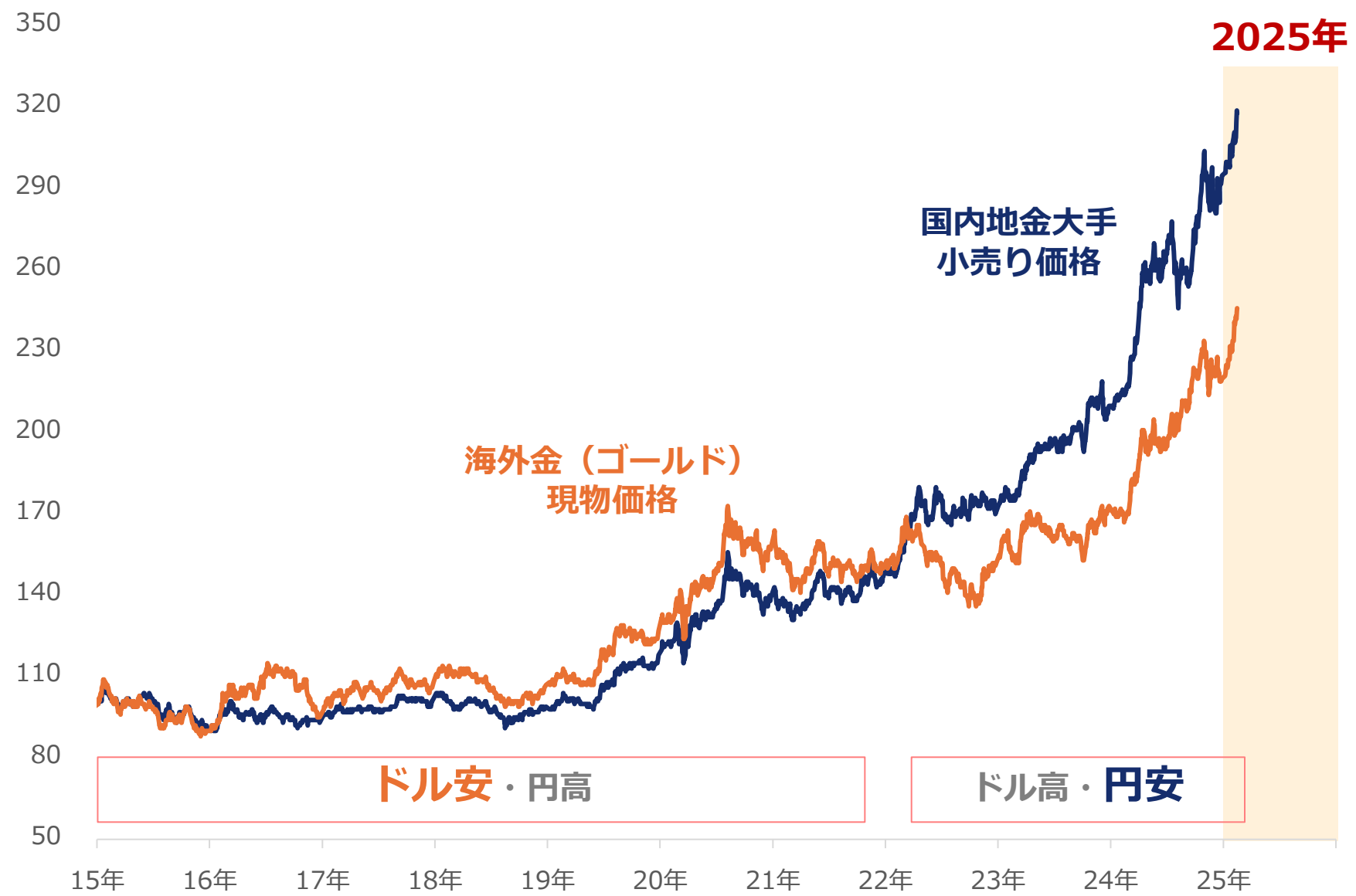


出所：WGC（ワールド・ゴールド・カウンシル）の資料をもとに筆者作成

トランプ氏が製造する有事は、世界分裂・長期視点の高インフレを加速させる。



# ● 海外金（ゴールド）現物価格と国内地金大手小売価格の推移（2015年1月5日を100として指数化）



出所：LBMAおよび国内地金大手のデータをもとに筆者作成

同じ金（ゴールド）でも、通貨が異なればパフォーマンスも異なる。

- 本日の内容

- 最近1カ月間の商品CFD 変動率ランキング
- 今注目したい銘柄（振り返りと展望）
- 質疑応答

**ご視聴いただきありがとうございますございました。**